令和５年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立　　広徳　　中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和５年４月１８日（火）に、３年生を対象として、「教科（国語、数学、英語）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

１．調査の目的

⑴　義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

⑵　学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

⑶　そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２．調査内容

⑴　教科に関する調査（国語、数学、英語）

教科に関する調査（国語、数学、英語）
①　身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②　知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

⑵　生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

３．教科に関する調査結果の概要

⑴　全国・本市の学力調査（国語、数学、英語）の結果

本年度の結果	国語		数学		英語	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	10.3	69	7.3	49	6.8	40
全国	10.5	70	7.6	51	7.7	45

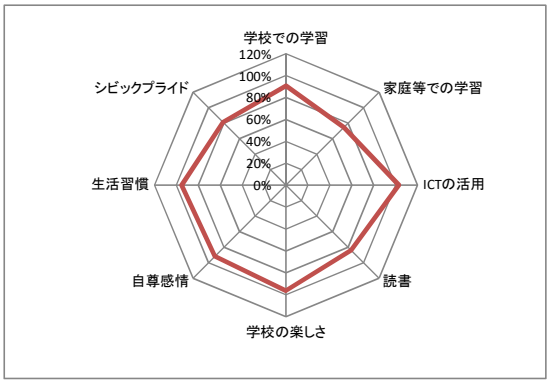
⑵　本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な 傾向や特徴など	・文章中の情報を整理したり、内容を理解する力は全国平均を上回り、力が身についてきている。一方で、言葉の特徴や使い方に関する問題で、簡単な誤字、脱字についてのミスが多く、今後の課題である。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・読むことの内容では、文章を比較したり、要旨を把握したり、根拠を明確に捉える正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	・言葉の特徴や使い方に関する正答率が低く、文脈に即した漢字を誤って答えている傾向にある。	

数学	全体的な 傾向や特徴など	・数の事柄が成り立つ理由を説明するなど、数の性質を捉える力は正答率が高く、身についている。一方で、関数やデータの活用において、論理的な思考力に課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・数と式、関数については正答率が高く、理解できている。	
	努力が必要な問題	・図形の領域では、根拠をもとに証明する記述の正答率が低く、苦手な傾向にある。	

英語	全体的な 傾向や特徴など	・聞くこと、読むこと、書くこと、話すことのいずれの領域においても、全国平均を下回っているが、短い文章を読んだり聞いたりする力は定着しつつある。一方、情報を正確に理解したり、肯定文や疑問文などを正確に表現する力に今後の課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・読むことの領域では、日常的な話題について文章の概要をとらえる問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	・情報を正確に聞き取ったり、肯定文や疑問文を正確に書く内容の正答率が低く、聞くこと、書くことが苦手な傾向にある。	

４．学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
・「学校に行くのは楽しいと思う」「友達関係に満足している」との問いに対して約80%の生徒が肯定的に回答しており、学校生活の楽しさを感じている生徒が多い。 ・PC・タブレットなどのICT機器を使った授業の頻度が高く、学習に効果的であると約95%が回答しており、効果的に働いている傾向にある。 ・「学校の授業以外にどれくらいの時間勉強しますか」との問いに１時間未満と回答した割合が多く、家庭学習にかける時間が少ない傾向にある。今後は、家庭学習の充実に向けた取り組みを啓発していく。

５．調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

①　教科に関する取組

・自らの考えを広めたり深めたりできる子どもの育成を目指し、授業でのめあて、振り返り、話し合い活動を充実させ、アクティブラーニングの定着を図る。
・各教科、領域の単元で効果的なICT活用を検証し、自分の意見を表現したり、仲間の考えを共有できるような授業を多く取り入れることにより、理解力、表現力を高めるように努める。

②　家庭生活習慣等に関する取組

・家庭学習の定着に向けて、自主学習ノート（Kワーク）の徹底、活用を周知する。
・早寝早起き朝ごはんの定着を図るとともに、携帯電話の使い方やルールについての情報提供や啓発活動を発信する。
・学校ではビブリオバトル等を通して読書の楽しさを推進していき、家庭でも機会を捉えて本に親しむ習慣づくりができるような情報発信を行う。